

Miyako Free!



“ゆるフォト”カメラマン・むらいさち × 宮古島の優しい横顔

宮古島といえば、地球のダイナミズムを感じさせる迫力の“地形”が定番。
でも、むらいさちが心惹かれたのは、自由で、気持ちがよくて、可愛い宮古島。ゆるフォト・カメラマンの感じた、宮古島の優しい横顔をご覧ください。

撮影/むらいさち 構成/寺山英樹 デザイン/中村孝子 協力/宮古島ダイビング事業組合、JTA (日本トランスオーシャン航空)



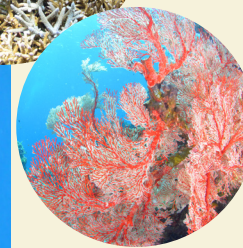
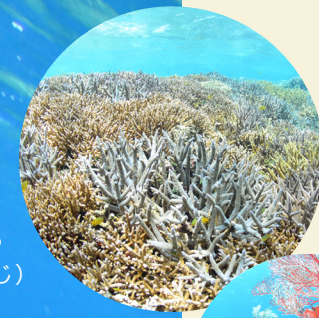
サンゴは海の 元気のバロメーター

宮古島といえばダイナミックな“地形”のイメージが強いが、うみカメラマンのむらいさちが最も心惹かれたのは八重干瀬（やびじ）に広がる元気なサンゴ礁。

「サンゴは海の元気のバロメーター。元気なサンゴは見るだけで嬉しくて、幸せな気分になるんだ」

南北約 17km、東西約 6.5km という広大なリーフ（水面近くまである根や瀬）をサンゴが覆う沖縄屈指のサンゴ礁群には、水深 5m にも満たない水底に色とりどりのサンゴがびっしり。ハナダイやスズメダイが群れるカラフルなシーンは、光と影の幻想的な地形とは対照的に、女性的で優しい横顔を見せる。

北風に弱いエリアなので、行きやすいのは南風の吹く 5～9 月ごろ。ベストシーズンといわれる 6～8 月の夏場は、波ひとつない鏡のような水面から、カラフルなサンゴが透けて見える。なんてことも！



池間島の北約 5～22km に位置する八重干瀬（やびじ・やえびし）は南北約 17km、東西約 6.5km という広さ。浅瀬のサンゴだけでなくアウターリーフにはドロップオフのポイントもあって、ソフトコーラルや大物、群れも見どころ



平良港から東へおよそ 40～50 分。池間大橋をくぐり抜け、リーフエリアに近づくと、群青色だった海の色は美しいエメラルドグリーンに変化する

Miyako Free! “ゆるフォト”カメラマン・むらいさち × 宮古島の優しい横顔

Free

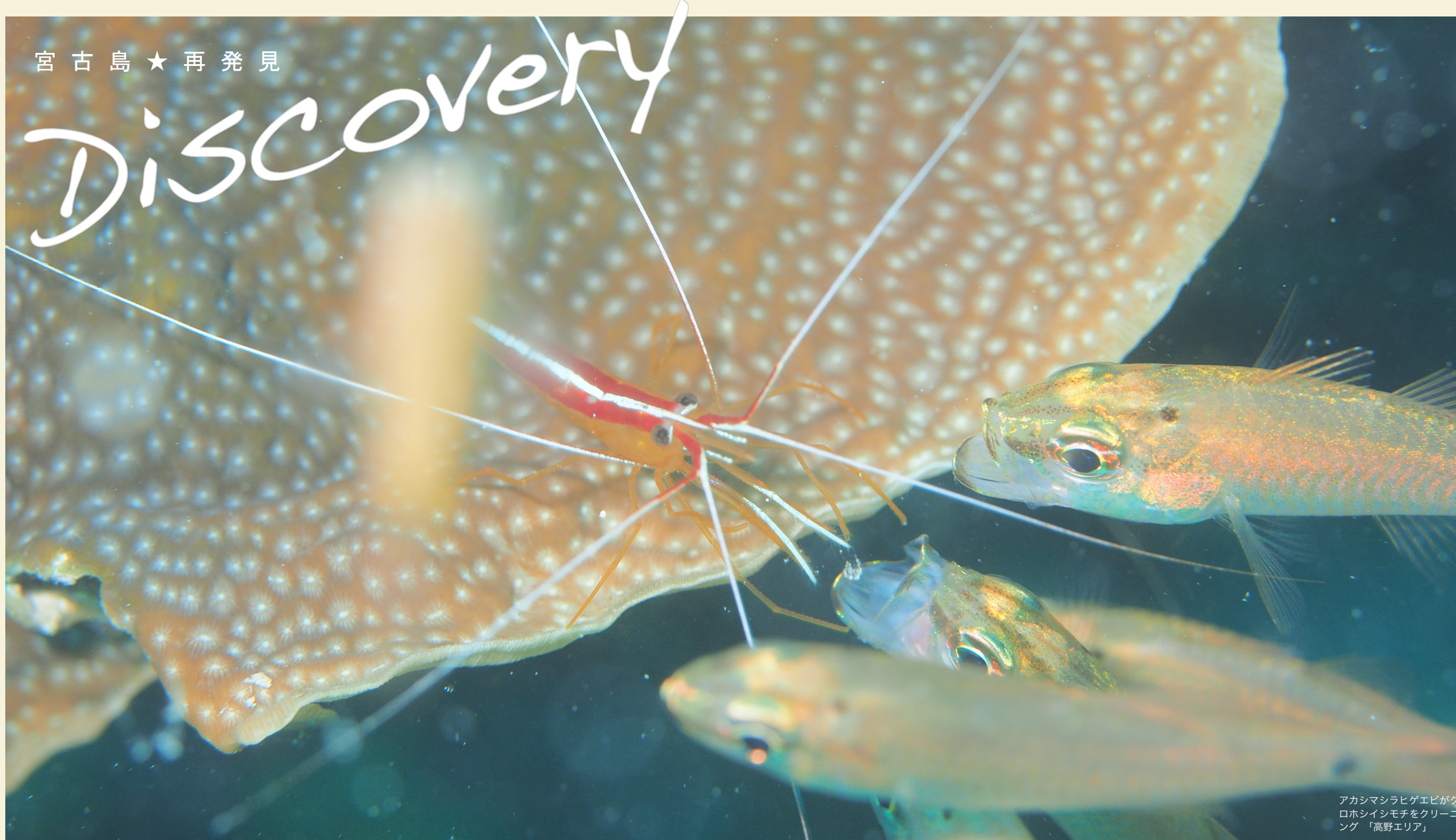
理屈抜きに気持ちいい



MiyakoFree! “ゆるフォト”カメラマン・むらいさち X 宮古島の優しい横顔

宮古島★再発見

Discovery



アカシマシラヒゲエビがクロホシイシモチをクリーニング「高野エリア」



高野エリアはウミウシが豊富



来間島のビーチでは、サンセットダイビングでニシキテグリの交接シーンを狙える



独特の海、高野エリア。ツフツフ干瀬というリーフにはユビエダハマサンゴがびっしり

地形だけじゃない、 宮古島のダイビングスタイル

宮古島の人気ダイビングポイントといえば、下地島（しもじじま）と伊良部島（いらぶじま）の周辺に集まる、いわゆる“地形ポイント”。

沖縄屈指、いや、世界屈指の造形美を持つからこそその人気なわけで、宮古島へ訪れたなら、まずは潜ってほしいことに変わりはない。

ただ、宮古島の海を知れば知るほど、地形だけだと思われてしまうのももったいな

いとも思うのだ。

まず、先述したように、八重干瀬の広大なサンゴリーフがその筆頭格だが、その他、地形は地形でも、宮古島の南海岸や東海外には、またひと味違った手つかずの地形ポイントが静かに口を開けている。

さらに、同じ宮古島のガイドでも潜ったことがないというほどレアな高野エリアの海は、透明度は落ちるものの、魚影がとにかく濃く、回遊魚や大物に期待でき、生態

系も独特。「無いのは穴だけ」という、良い意味で宮古島らしからぬ海だ。

「宮古島は魚が少ない」というダイバーもいるが、これは誤解。

いや、確かに、石灰岩でできた地形ポイントでは、魚のバリエーションは豊富でなく、全体的にブルーの世界でカラフルなイメージはない。それがウリでもある。

しかし、サンゴポイントに潜れば生命に満ち、透明度と引き換えに栄養分をため込んだ湾内ポイントでは、じっくりフィッシュウォッチングや生態撮影が楽しめる。

むしろ、ワイドもマクロも両方楽しめるのが宮古島の本質だろう。

その上、陸の遊びもバリエーションがあり、アクセスもよいので、まさに、“通う沖縄”としてオススメなのだ。

広大な宮古島の海の楽しみ方は多様。数あるダイビングショップによって、メインで潜るエリアが異なり、地形オンリーから生態マクロを得意とするお店までさまざま。その辺のリサーチをしてから潜りに行けば、自分スタイルで宮古島を楽しめるだろう

Miyako Free! “ゆるフォト”カメラマン・むらいさち × 宮古島の優しい横顔

Faces



1



2



3



4



5



6

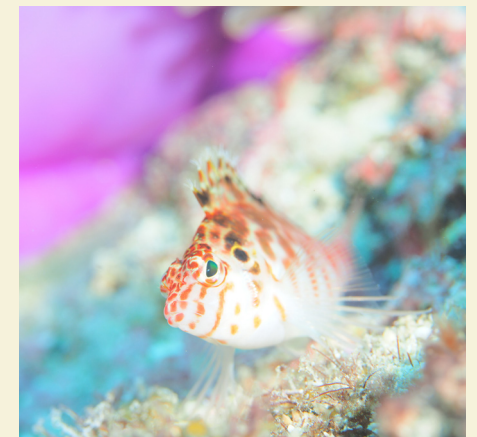
笑って見えるホヤ、通称“笑いボヤ”。その他、カールおじさんに見えるホヤもあるので探してみてください

1. 定番のアイドル、クマノミの種類も豊富
2. 砂穴からギョロっとした大きな目玉と口を出すジョーフィッシュ
3. カイメンをかぶってカモフラージュしているカイカムリ
4. モンツキカエルウオ。よく見ると、鼻毛（に見える）が生えている
5. サンゴの隙間を住みかとするカンザシヤドカリ
6. ふくれっ面が可愛いシマキンチャクフグ

MiyakoFree! “ゆるフォト”カメラマン・むらいさち × 宮古島の優しい横顔

よくある風景とよくいる魚だってフォトジェニック

Cute♡



クロスズメダイの幼魚

上から
ジャバニースピグミーシーホース
シマイソハゼ
ミナミゴンベ
ウミヒルモに産みつけられたウミウシの卵

MiyakoFree! “ゆるフォト”カメラマン・むらいさち×宮古島の優しい横顔

青と光の競演

地球のダイナミズムを体感！

はじめて宮古島を訪れた、ゆるフォトカメラマンむらいさち。潜り終えた感想は……
「潜る前は、地形ばかりというイメージだったけど、実はバリエーションがあるんだね。でも、やっぱり地形は想像を超えるほど素晴らしかった」

世界中のダイバーたちを、“Geographic (地形)” な海として魅了する宮古島の海。

サンゴが隆起し大地を作り、海が大地を削って造り上げた宮古島の地形でのダイビングは、まさに“地球を感じる”体験だ。

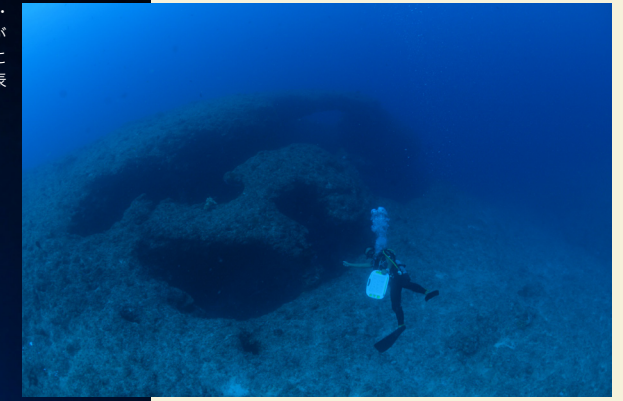
「ひとつの画面に、こんなにたくさん穴が写るなんて！」とむらいさちが夢中にシャッターを切ったのは、宮古島を代表するポイント「アントニオガウディ」。

水深 20m 付近に口を開けたホール入口へ進入し、水深 30 m オーバーの水底から見上げてみる。6つのホールから光が降り注ぎ、ブルーのグラデーションが美しく、角度によっては笑って見える。

「アントニオガウディ」は、キャッチーなポイント名も手伝って特に有名だが、宮古島、下地島、伊良部島周辺には世界屈指の地形ポイントが集中し、バリエーションも豊富。地形ポイントの数だけ、名前に込められたストーリー、光と地形の演出がある。

Beauty

スペインの建築家・アントニオガウディがそのままポイント名になった、宮古島を代表する地形ポイント



地形を楽しく撮ろう！

地形シーンの撮影は、どうしてもワンパターン、マンネリになりがち。そこで、被写体となるダイバーと連携したり、魚を写り込ませたり、アングルを大胆に工夫してみるのもおもしろい。アイデア次第でガラリと変わるのがワイド写真の楽しいところ



Miyako Free! “ゆるフォト”カメラマン・むらいさち × 宮古島の優しい横顔

Lovely



海と空と太陽と島には“可愛い”がいっぱい

可愛い色とモノが大好きなむらいさちは、海の中と同じくらい陸の撮影にも夢中。まず、心奪われたのは、宮古島と離島をつなぐ池間大橋と来間大橋。

「宮古島の橋って、海に浮かんでいるようでとっても美しいよね！」

2015年1月31日には、全長“珊瑚の島”（3540m）の伊良部大橋も開通し、これで5つの島につながった。最終日は、ドライブしながら離島散策を楽しんでほしい。

観光地には事欠かない宮古島だが、むらい

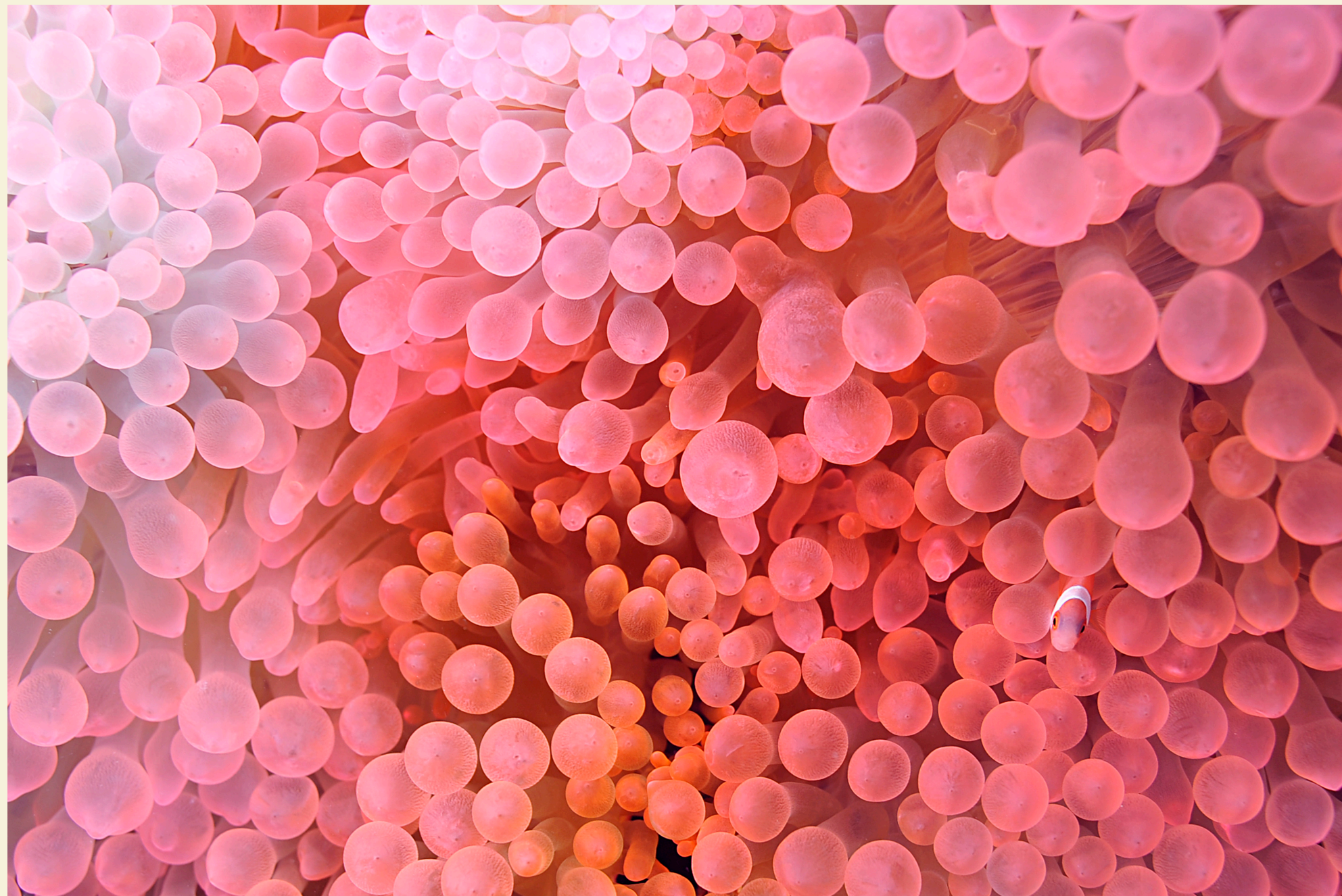
さちのテンションが最も上がったのが「観光農園ユートピアファーム」。花とアイスクリームが大好きな彼にとって、ブーゲンビリアが咲き乱れ、果実たっぷりのマンゴーアイスがあるのだから当然かも。

島には、マンゴーやパッションフルーツ、パパイヤなど、彩り鮮やかな果実を使ったスイーツやジュースも。「おいしい!」「可愛い!」と繰り返しながら、撮って食べてを繰り返すむらいさちなのでした。

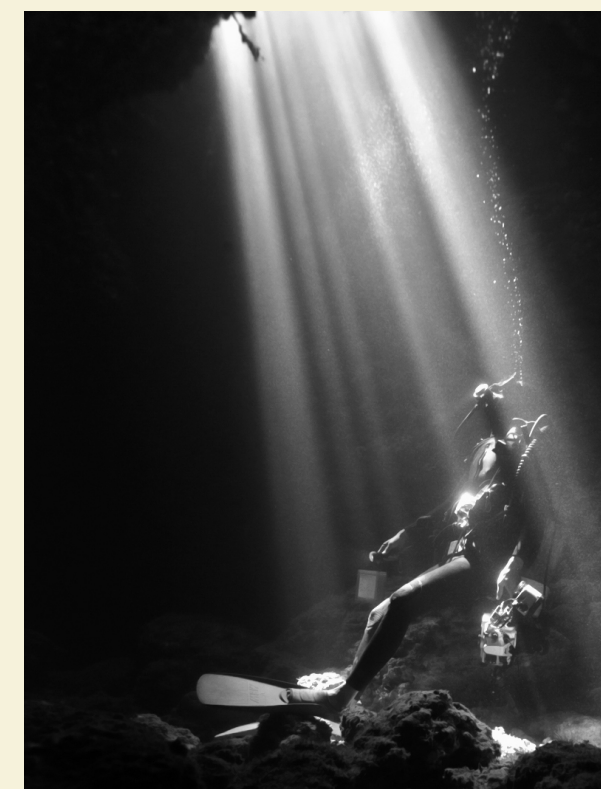
宮古島と来間島（くりまじま）を結ぶ来間大橋

Miyako Free! “ゆるフォト”カメラマン・むらいさち X 宮古島の優しい横顔

宮古島フォトコン 2014 入賞作品



準グランプリ
「背後の間」りっく

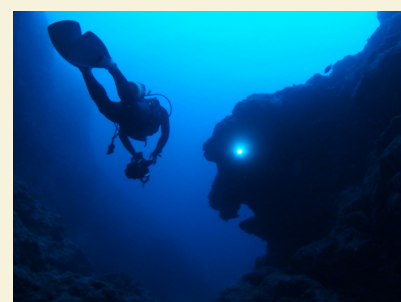


準グランプリ
「陽射し」hiro3

グランプリ
「色の力と神秘」たけし



サンゴ賞
「未来への贈り物」
しゅうちゃん@オヤジーズ



地形賞
「モンスター出現」しんぺえ



マクロ賞
「よばれてとびでて!」たえころ



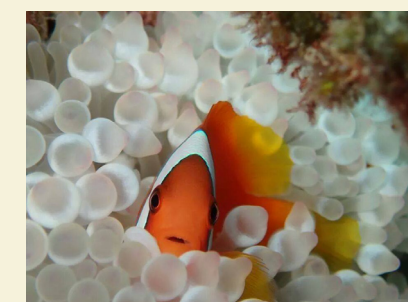
特別賞
「クリスマスツリー」Umekichiy



特別賞
「やすらぎ」デューク津川



Oceana賞
「海を翔ぶ」まや



マリンダイビング賞
「フワフワのおうち〜」ゆかびい

MiyakoFree! “ゆるフォト”カメラマン・むらいさち × 宮古島の優しい横顔